

**三重県私費海外留学生体験記**  
**中村 栄宏さん（オランダ・アムステルダム）**  
**アムステルダム音楽院・リコーダー専攻**

**2018年10月更新**

**・専攻している科目の学習状況について**

早くも学生生活4年間の半分が終わってしまいました。この2年間を振り返ると、たくさんの留学ならではの経験ができたと感じます。英語での授業に最初は圧倒され、自信があった演奏面でも基礎テクニックからすべてやり直し。大きな不安を抱えたまま留学生活のスタートでした。

日本では知る機会がなかった新しいテクニック。長年使ってきた自身の癖を矯正するのは時間も労力がかかりましたが、諦めずに続けられたのは、先生方のサポートと、自分に向き合う時間を取れる留学のおかげでした。英語にも慣れてきたこともあり、2年間でしっかり基礎的な奏法を見つめ直すことができた実感があります。これからの2年間はより多くの楽曲に触れ、まだ自分にとって未知の分野への挑戦をしたいと考えています。

日本でリコーダーを学んでいれば特に遠い分野になるのが、リコーダーでの現代音楽演奏です。アムステルダム音楽院では現代音楽に触れる機会が多く、これまでも大曲に挑戦する機会が学内でありました。今年は現代音楽のコンクールに挑戦するつもりで、これまでの成果をだせるようにすでに練習漬けの日々です。またそれ以外にも、本来のリコーダーの活躍分野である古楽についても、たくさんの知識・経験を得られるように勉学に励みたいと思っています。

**・ボランティアやアルバイトなど、どのような学業以外の活動をしていますか。**

オランダのリコーダーメーカー「Coolsma」「Aura」はその高い品質から、長年日本のリコーダー奏者・愛好家に愛されています。2017年より、日本の卸問屋様から依頼を受け、オランダから日本に出荷されるリコーダーすべてを選定しています。2~3カ月に1度ほどの依頼のため、その都度アムステルダムから電車で30分ほどの工房へ選定に行っています。木製リコーダーはその個体により、かなりの品質にバラつきがあるため選定の必要があります。自分が選定を始めてから日本での売り上げが徐々に上がってきている、とのことで、選定者冥利につきます。

また、アムステルダムには多くの日本人がいるので、昨年末から日本人の小中学生向けの塾でたまにアルバイトをしています。オランダにいながら塾内はさながら日本なので、日本が恋しくなる機会が少し減りました。音楽以外の経歴がこんな形で役に立つとは思っていませんでした。

日本に帰国した際はソリストとしてオーケストラとの共演の機会や、子どもから大人までをレッスンしたり、ソロリサイタルをするなど、リコーダーを広めるためにいろいろな活動をして過ごしました。

・三重県や日本の文化や習慣等について紹介する機会がありますか。

特にそういった機会はないのですが、教育法の授業で日本のリコーダー事情について触れる機会があり、その中で、三重県の小学生によるリコーダー演奏レベルの高さを紹介することができました。授業に参加していた人たちはとても驚いていたようでした。

**2017年11月更新**

・あなたの留学目的は何ですか。

一人でも多くの方に、リコーダーの素晴らしさを伝えることができる奏者・指導者になることが目的です。そのためには、リコーダーとクラシック音楽にとっての本場であるヨーロッパで教育を受け、影響力のあるリコーダー奏者になることが楽器の素晴らしさを伝える一歩と考えています。私にとって、リコーダーは、言葉を越え、人々の心に直接音楽の喜び、楽しさを訴えかけることができる楽器です。留学後には演奏活動はもちろんのこと、リコーダーの素晴らしさを教育現場からも発信することが私の夢です。

・留学している学校や専攻しているプログラムの特徴は何ですか。

アムステルダム音楽院のリコーダー科の特徴は、2名の素晴らしい教授から毎月レッスンを受けることができ、古楽・現代曲を均等なバランスで学べることです。また、他の大学と比べ学生数が多いため、全員がルネサンス時代の楽器を用いて(通常知られているリコーダーの形は後期バロック時代)、今年度は総勢15名での合奏に取り組んでいます。こういった合奏ができることも、アムステルダム音楽院ならではの体験です。

・留学大学に入学するにあたり、どのような手続きやテストが必要でしたか。

専攻楽器の実技試験、面接、音楽理論の試験、音楽基礎能力(ソルフェージュ)の4つの試験に加え、英語話者以外は Toefl、もしくは Ielts の受験が必要でした。すべての試験は英語で行われます。日本の大学と異なるのは、最後の面接試験が終わった後にその場で合否が伝えられることです。合格後の手続きは、基本的にインターネットから進めることができ、滞在許可の申請と学費納入に関する手続きが主な事柄でした。

・留学校を決めるにあたって利用した資料や機関はありますか。

特にありませんでした。

・現在の留学校に決めた一番の理由は何ですか。

アムステルダム音楽院主催のサマーセミナーで、指導教授からレッスンを受け、その演奏にも触れる機会があったことが決め手でした。セミナー中は、リコーダーに対する自分の思いが根底から覆されるような、めくるめく期間でした。教授の演奏は、まるで私に「リコーダーを吹くことは、心底楽しい行為なのだ。この楽器の素晴らしさを伝えるために、君の人生はあるのだよ」と語りかけているように聞こえました。教授の超一流の演奏を耳にしたとき、私も一度は彼と同じ高みに登りつめてみたいと強く感じました。アムステルダム音楽院での体験は、私にとって一大転機でした。その後、教授のサポートもあったことで、受験

を決意しました。

**・昨年度、あなたが関わった国際交流・貢献活動について教えてください(ボランティア活動など)。**

リコーダーの指導と演奏活動です。昨年度は留学前に100校近い小学校においてリコーダー導入の授業を行いました。全国の小学生3年生に本来のリコーダーの音を聞いてもらうことはとても有意義で、留学後もこの講師業を続けていきたいと考えています。演奏活動は主に東京近郊で行っていましたが、私の出身地である桑名でも、7年間続けてコンサートを行っていました。三重県からリコーダーを発信し続けたい、という思いがあり、コンサートには必ず三重県の子どもたちを巻き込むようにしています。彼らの演奏も相まって、このコンサートを楽しみにして下さるお客様が多くいらっしゃいます。